

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300872
法人名	社会福祉法人 鹿屋恵友会
事業所名	グループホーム 花岡の里
所在地	鹿児島県鹿屋市花岡町3988番地 (電話) 0994-31-8937
自己評価作成日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダから錦江湾を望め、景観が素晴らしく自然に囲まれている。広いホール内に腰高の畳敷きスペースがあり、入居者の休憩場所になったり、レク等で舞台として使用することもある。居室内は洗面台・クローゼット設置。テレビ・仏壇・ドレッサーを置けるスペースがあり、居心地の良い住まいになっている。毎日の日課として、ラジオ体操・嚥下体操・ストレッチ・ウォーキング・レクを行い健康増進に努めている。また、季節に応じた催し・誕生会・ユニット合同での催しを開催し楽しく活気ある生活が送れるように努めている。例年は、外食・バーベキュー・鍋会・たこ焼き会・テイクアウト食で賑やかに楽しく食事を楽しんでいた。(現在は感染症蔓延防止のため自粛中)利用者の身だしなみおしやれに気を配り、常に清潔でいられるように努めている。定期受診は訪問診療を月2回利用し、状態に応じてドクターと連携を図り、健康管理に努めている。(看取りも行っている)また、かかりつけ薬局にて薬剤師へ相談・助言を受け服薬を実施している。法人内の歯科衛生士による口腔内に関するアドバイスをもらい、治療の必要な方は訪問診療で歯科医に診てもらっている。

- ・当事業所は母体法人の特別養護老人ホームに隣接して建てられており、法人の身体拘束適正化委員会や研修への参加、歯科衛生士等の協力、デイサービス利用者との交流、災害時の対応等、日頃から協力関係が築かれている。
- ・月2回の訪問診療や月2回の訪問看護師による健康チェックが行われている他、かかりつけ薬局及び法人の歯科衛生士の専門的助言を受ける等、医療・健康における手厚い対応が行われており、家族の意向に沿って看取り介護にも取り組んでいる。
- ・管理者・職員は、利用者と家族が良い関係を保てるよう居室面会や外出・外泊・外食等の交流を支援し、事業所からも近況報告の手紙を毎月送付して家族との繋がりが途切れないように取り組んでいる。
- ・管理者は、職員の負担を軽減し介護に専念できるよう配食サービスを導入し、休憩時間の確保にも努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はホール内に掲示している。毎朝朝礼時にスタッフ全員で理念の唱和をし、理念に沿った対応ができるように努力をしている。	理念は各ユニットの2ヶ所に掲示し、重要事項説明書やパンフレットにも掲載している。毎朝唱和及びケアの振り返りを行って実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。畑作業をされる時に駐車場を提供し、採れた野菜のおすそ分けがある。	回覧板で地域情報を得ているが、感染予防のため地域行事への参加は控えている。住民からの野菜の差入れや大学生の実習受け入れは継続しており、感染状況をみてデイサービス利用者との交流も実施している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議で理解が得られるように努めている。地域にある体育大実習生・中学生職場体験の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催：構成員（入居者・家族・町内会長・公民館長・かかりつけ薬局の薬剤師）（理事長・施設長・管理者）	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、事業所の報告及び意見交換を実施している。地域情報を得たり、ヒヤリハット及び事故報告について紹介し、薬物に関する助言を受けることもあり、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から、電話やメール・直接出向き、様々な情報交換や相談を行っている。	市の担当者とは、運営推進会議での意見交換や電話・メール及び出向いての相談で連携を図っており、研修会も参加している。生活保護担当者の来訪もある。市に協力して国民体育大会の花作りにも取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会で確認しあっている。施錠や拘束は行っていない。散歩を楽しみたい入居者はスタッフと一緒にしている。	法人で指針を作成しており、委員会を法人で3ヶ月に1回、事業所でも3ヶ月に1回委員会及び研修を実施している。不適切な言葉は管理者から注意を促し、行動抑制にならないようにしている。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には散歩に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で注意を払い防止に努めている。日頃の言葉使いにも注意をしあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を活用している入居者がいて社協担当者の訪問がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	締結・解約時は、話し合いや、文書を通して説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や要望を聞き、表出出来ない方へは、くみ取れるように努めている。家族へは手紙・電話・運営推進会議などを通じて話し合い、意見や要望を随時伺っている。	本人には日常生活の中で要望を聞き、食べ物は食事に取り入れ、美容院利用や外泊は家族の協力も得て対応している。家族には、電話や面会時に要望を聞き、居室やホールでの面会や外出・外泊も要望に応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別に意見を聞いたりして話し合っている。法人にも相談して反映出来るようにしている。	朝礼時に提案等が出されることが多く、職員の要望で電動ベッドへの入れ替えや入浴時のリクライニング車いす購入に反映している。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境の整備のため、随時管理者が代表者へ相談している。年2回、自己評価・査定がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種リモート研修を受ける機会がある。毎週月曜日に代表者が集まり昼礼にて各部署の状況報告をしあい、情報交換を行っている。職員会議は月1回。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、大隅地区グループホーム協議会に加入させており、各種リモート研修に参加させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報収集・把握を行い、直接接する中で本人の話に傾聴して思いや不安を受け止められる関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせ、見学時（状況に応じ）や面談の際、家族の話をよく聞き、相談や要望に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや関係者等と連携を図り、情報収集して見極めている。利用対象外の場合、同法人内のサービス部署を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物干し・ゴミ集め・シーツ交換等、できることの役割を担ってもらい、一緒に楽しみながら生活している。会話の中で励ましたり、励まされたり、冗談を言ったり笑ったりして信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外来受診の付き添いは家族の協力をもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・友人の面会・電話でのやり取りをして良好な関係が維持できるようにしている。併設のデイサービスに通っている友人と面会ができるように支援している。	家族・知人との居室面会や希望で家族との外出・外泊・外食を支援し、家族との繋がりが途切れないように努めている。馴染みの美容院利用時の送迎やデイサービス利用の友人との交流も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブル時は、座席の位置変換・仲裁を行っている。共通に楽しめる話題提供をし、関係性を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移行される時は、情報提供している。契約終了後も相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中でその人らしさの把握に努めている。本人の日々の表情や言動・行動・家族からの情報などから汲み取り共通の認識を持つようにしている。	日常会話で本人の希望や意向の把握に努めており、編み物の材料を要望される利用者もある。困難な場合は、家族や職員の情報を参考に、本人の様子から思いを汲取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとに生活の中で本人と会話したり、家族・友人の面会時に情報を得ながら積み上げて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の観察記録・申し送り等で情報共有している。日常の訴えに耳を傾けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場の意見を聞きモニタリングを行い、現状に即した介護計画や実践の見直しに反映させている。	本人や家族の要望を聞き、職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回、見直しは6ヶ月毎及び状況変化時等は現状に合った介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践での気づきや介護記録などで情報を共有し、介護計画や実践の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度の状況に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室の訪問カット・行きつけの美容院利用・買い物・外食・テイクアウト・消防署・公民館の地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3件の医師による訪問診療・歯科往診を受けている。また、かかりつけ薬局を持ち、薬剤師に薬の相談を行っている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、全員、3ヶ所からの訪問診療を月2回利用している。歯科の往診や訪問看護師による月2回の健康チェックも行われており、他科受診は家族対応である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月2回訪問。入居者の健康状態をスタッフと共に把握し、必要であればドクター往診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心できる治療や早期退院を目指し、病院関係者と連携を図っている。入退院時はソーシャルワーカーと情報提供を相互に図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望があれば、終末ケアも行っている。訪問診療・訪問看護と連携を図り、家族やスタッフ間で話し合いながら不安の解消に努めている。	契約時に、重度化等の場合の対応について選択肢も含めて説明し、同意書をもらっている。重度化の場合には、医師から家族に病状説明し、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。看取り希望の場合は、医師・訪問看護師等とチームで支援しており、看取り介護の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応はマニュアル化している。事業所内にAEDを設置している。外部研修や普通救命講習の受講を行い、実践力を身に付けているようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策はマニュアル化している。年2回消防訓練を行っている。防災行政無線個別受信機を設置して、市・町内の放送を受けることができる。委託による防災設備の定期点検をしている。法人全体の一斉放送設備や緊急連絡網を整えており、非常食も備蓄している。	年2回、昼夜想定で火災避難訓練を実施し、消防署の立ち合いは受けていない。緊急通報装置に町内会長の登録があり、地域の協力体制が築かれている。非常用の備蓄は、3日分の水・缶詰・米・カップラーメン等の食料を準備しており、法人でも備蓄している。台風時は発電機を設置している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に日常の言葉かけは丁寧に行うようにスタッフ間で注意しあっている。入室時は本人に断ってから入るようにしている。ケアを行う際は、自尊心を気付けられないように十分な配慮を行うようにしている。	法人で研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。さん付けでの呼びかけや入室・ケア前の声掛け、希望時の同性介助、ベッド上の排泄介助時はドア及びカーテンを閉める等、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の起床時間に応じた対応をし、生活リズムが整うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れに沿って、一人ひとりに応じたペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	誕生会・行事ごとに応じ、化粧や洋服のおしゃれの支援を行っている。美容院の訪問カットを受けている。整容の日を設け細やかなお手入れを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き、テーブル拭き等手伝ってもらっている。食事ときは、日時・メニュー紹介・朝・昼・夕食の区別ができるように紹介している。	外部の配食サービスの利用で、事業所では朝食及びご飯を調理し、利用者も一緒に下ごしらえやテーブル拭きをしている。誕生日のケーキやテイクアウトの弁当、イベントでのおやつ作りにも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を取り把握している。入浴後の水分補給を行っている。食事形態（ミキサー・刻み・トロミ・おかゆ・おにぎり・好き嫌い）水分制限・アレルギー等が、個別に対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人のニーズに応じた口腔ケアを毎食後行っている。夜間はポリデントを使用し保管・管理している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人に合わせた排泄用品を適切に使用している。排泄チェック表で排泄リズムを把握している。羞恥心を気づけないように周囲への配慮を行い自立支援を行っている。	定時誘導を行い、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。定時誘導により、布パンツ使用の維持や失敗の減少等の改善がみられる。排泄用品は適切なものを個々に検討して使用している。夜間のみ、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から便秘の弊害や原因を皆で話し合っている。水分・野菜・乳製品を取り入れている。薬は状態に応じ調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1日おきを基本に入浴している。汚染時は随時対応している。入浴剤を使用しリラックスできる入浴を楽しんでもらっている。入浴前に塩素濃度測定・年1回レジオネラ菌検査をして安心して入浴できるようにしている。	隔日の午後入浴を基本に支援しているが、希望で柔軟に対応している。すべての利用者が浴槽を使用し、入浴剤や希望での同性介助等で、ゆっくり楽しんでいる。嫌がる場合は、声掛けを工夫して入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン・衣服・Pトイレ 設置場所・空調・照明の調整など静かに安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局を持ち、薬の説明書・往診時の記録を整備し情報共有を図っている。服薬しやすいようにゼリーに混ぜたり1包化にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力量に応じた役割を担ってもらっている。行事ごとを大切に、催しを開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の身体状況に応じ、季節事の外出を行っている。家族とも外出ができるように支援している。	天候の良い日は、玄関前やベランダでの外気浴や近隣の散歩をしている。年間計画を作成して、感染状況を見ながら取り組んでいる。家族と外出・外泊・外食をする利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所有している方は数名、希望があれば必要な買い物等が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持している方は、自由に掛けてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダ近くにテーブルと椅子を用意し、くつろいでもらっている。食堂には、静かな音楽を流しリラックスできるようにしている。	ホールは天井が高く、高窓からの採光で明るい。空気清浄機や加湿器・サーキュレーターで適度な室内環境に調節し、窓を開けて換気も十分実施している。季節の飾りつけやベランダからの景色で季節を感じており、ソファやイスを置いて利用者がくつろげるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席・畳でゆっくりできるような居場所がある。 状況に応じ席替えを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クッション・羽毛布団・枕・椅子・テレビ・写真・人形など、本人が使用していた使いやすく、落ち着く物を持ち込んでもらっている。	居室には、電動ベッドや洗面台・クローゼット・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人は、テレビやラジオ・仏壇・ソファを持ち込んだり、位牌や写真・ぬいぐるみを身近に置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の座る場所・部屋・トイレがわかるように目印をつけている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない